

ぴっぴだより

No.9. 2023. 11. 29

言葉 ～自分の中にあるほんとうのこと～

小学校2年生くらいの時、その時はアルゼンチンの学校にいたのですが、教室で突然立ち上がって、自分のことを話そうとしたことがありました。話したかった内容はまったく状況とは関係なく、ほぼ妄想に近いのですが、自分の内にくすぶっていた想いをなんとか言葉にして表現したいという決意で、立ち上がったのです。

でも、言葉は全く出てきませんでした。先生はしばらく黙って待ってから、「また今度聞かせてもらおうね」と優しく座らせてくれました。その時のことをすごく覚えています。

言葉にはならなかったけれど、自分のなかにあるほんとうのことを表そうと勇気を出して立ち上がり、先生や友達がその「表現」を、そっと見守ってくれたこと。

ブエノスアイレス日本人学校は、一学年10～15名ほどの小さな学校で、門番のゴメスさんがいつも笑顔で迎えてくれて、先生との距離が近く、場面緘黙のある子も、私のように突拍子のない子も、柔らかく受け止めてくれる土壌があったように記憶しています。そんな私が、日本の公立小学校に戻ったのは小学校3年生の時でした。その時の衝撃は決して忘れられません。いま娘・友珠が、その年齢です。

今年の8月から11月まで、ぴっぴスタッフであり演劇教育ファシリテーターである中澤聖子さんが中心になって行う、小学生向け「自分と友達を知る遊び表現ワークショップ」があり、ピンときた私は、迷うことなく、友珠を誘って送り出すことにしました。

全8回のワークショップは、非常に感動的なものでした。

遊びや演劇表現を使ったワークショップで、子どもたちは、回を重ねるごとに生き生きと、水を得た魚のように自分を表現しはじめ、大人の目にもそれは明らかででした。

ちゃんと想いを口にできること。口にしたい想いを受け止めてもらえること。「言わない」も表現として認めてもらえること。遊びながら、感じながら、動きながら、考えながら、笑いながら、身体と心を使って過ごしたこの1日2時間×8日間の時間が、いかに楽しく濃密であったか、十分すぎるほどの言葉を子どもたちから聞くことができました。

そして、言葉じゃない、言葉も。

この時間が間もなく終わることへの寂しさ。手紙。涙。

もしかしたら、子どもたちも、大人と同じように、学校や日常の中で人間関係のパワーバランスを感じながら、主観を含まない情報を言葉でやりとりし、「自分の中にあるほんとうのこ

と」を表せずにいたのではないか。「自分の中にあるほんとうのこと」を表し合い、認め合ったら、こんなに深く友達になれるんだなあ。それはきっと、、、大人も同じだよね。
…そんなことを考えていた、11月12日、表現発表の当日。

子どもたちの発表の前に、東村山市での演劇表現プロジェクトのドキュメンタリー映画「じぶんのことば」が上映されました。
今回のワークショップ同様、子どもたちがゼロから作品を作り上げるまでのプロセスを追ったものなのですが、ファシリテーターの方々の関わりが素晴らしく、子どもたちの本来持っている輝きが引き出されていく姿がまぶしく、本当に感動しました。
観終わって、ファシリテーターの方々や今回のワークショップに子どもたちを送り出した保護者の皆さんと共に、感想を分かち合いました。

皆さんの感想を聞いているうちに、なんだか少しずつ、アルゼンチンの教室で勇気をふりしぼって立ち上がったときの、あのときの感じが蘇ってくるような気がしました。

「ほんとうのこと」を言うんだ、というあの気持ち。

日本の小学校に戻ってから、無価値と同然だった、ほんとうの気持ち。正しい答えは、「となりの人と同じです」か「考え中です」だったあの3年生からの日々。どうして自分で決められないのか訊ねても、無視して行ってしまう先生。

見守ってもらえさえすれば、生まれてきたかもしれない表現がたくさんあったのにな。
マイクがまわってきたとき、私の中から出てきたのは、言葉をふさいでしまうほどの涙でした。

なぜ、娘が3年生のこのタイミングで、このワークショップに出会えたのか、この映画に出会えたのか、それに共感する大人や子どもに出会えたのか、本当に不思議だと思います。
小学生の私に贈られた、40年後のプレゼントでしょうか。

追記

…この原稿を書いた後、もうひとつプレゼントがありました。
なんとこれを読んだまゆさんが、是非びっぴで「じぶんのことば」を上映したいと仰り、スタッフ会議でトントン拍子に上映が決定したのです！
というわけで、思いがけず、ただ書いた原稿が、上映のお知らせに変身しました。

◎ 1月30日(火) 9時30～(上映時間1時間)メインホールにて、参加費無料
「じぶんのことば」の上映会を行います。どうぞご予定ください。

最後まで、読んでくださってありがとうございました。
西川真木枝(保育サポートスタッフ/「呼吸の時間」担当)

森と絵本と巡る季節

12月

「ガガイモ」という植物をご存知ですか？この季節、森の縁や里子原のあたりを散歩しているとふわあ〜と大きな綿毛がとんでいるのをみかけることがあります。

綿毛の長さは2cmほどもあり、下に1cm弱の茶色の種がついて風によってふわふわと舞い、初冬のやわらかな光を受けてとんでいく様はうっとりしてしまいます。

細長い10cmほどの実の中にその綿毛が無数に入っていて、パカッとわれた実から顔を



ガガイモ
フウセンカズノコ科イヌマユ属

のぞかせています。子どもたちにそのガガイモの実をみせ、空へその綿毛を飛ばすと

「わあ...!!」とどの人もキラキラした目で空を仰ぎ、綿毛を追いかけていきます。

その姿のかわいいこと、綿毛の美しいこと、そんなことからこのガガイモが実は大好きでこの季節に

みつけるとつい家につれてきてしまいます。そして今月はこのガガイモが登場する絵本

『ふわふわふとん』カズヨ・G・ストーン さく (福音館) をご紹介します。

...おおきな おおきな やなぎの きりぎりすに、らいさな らいさな むらがあります。(略) そこにははつたのトビハネさんと、かたつむりのキララさんと、くものセカセカさん、ありのハッピーママ、しほりのセッセおや

がすんでいます。やなぎのはもす。かりち。して、ふわふわとすぐそこにきています(略)

かぜがきゅうにつめたくなつたあるひ、みんなはあさはやくめがさめてしまいました。

「ぼくちよとさかい」ありのほらやがいました(略)「あつたかいおふとんがあるといいね。」といて

やなぎむらのみんは

冬をすためのおふとんをさがしにでかけるのです

その途中、霜柱に苦勞したり、雪が舞いこぼるにたたり、

途中、友だちに助けをもらったり... 及びやなぎむらのみんは「あつたかい

おふとん」みかたにのぞくか？ ぴんでも霜柱や舞う雪をみられる

季節にたまりましょね。ぜひこの季節にぴんたりの絵本、読んでみて下さいね！ 菜々



た ま い は ね よ

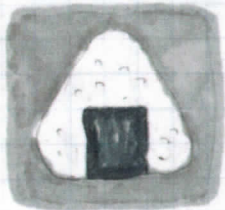
先日の新米まつりでは、穏やかな気持ちのいいお天気の中、新米を飯ごうや羽釜で炊いたり、籾から脱穀、もみすりするコーナーがあったり、豚汁の野菜をカットしたり、大豆をさやから出したり、大豆を炒ってそれをゴリゴリとすり鉢で細かくしたり、おもちを丸くする作業があったり...

それぞれでいろいろな重労働があって、ひらひらの時間ができているのを感じて...そしてできあがったものをみんなでいただく...お店やさんも素敵すぎで...

実りだけじゃない豊かなものをたくさん感じる幸せな時間でした。ありがとうございました！

今年の田んぼは、面積を今までの倍にして、どんな感じかやってみよう！というある意味挑戦だったわけですが、成育もおかげ様で順調で、たくさんのお米を収穫することができました（わーい！感謝です！）。

ひらひらの子どもたち、ほろひらひらの子どもたち、関わる大人の方々と作った新米です。ご希望の方はまだお買い求めいただけますので、お気軽にお声掛けください。



ひらひらのお米...無農薬・無化学肥料で育ったササシグレという品種のお米です。

先祖にもち米系統の性質をもっていないため、

粘りが少なく、あさりしている品種。アミロースが高く、アミロペクチンが低い、高アミロース米と言われています。そのため血糖値が上がりにくい。米アレルギーの人でも症状が発症しにくいと言われています。(注)